

都内の透析患者における新型コロナウイルス感染症の入院調整の現状とお願い

東京都透析医会 安藤亮一、大坪 茂
東京都区部災害時透析医療ネットワーク 酒井 謙、菊地 勘
三多摩腎疾患治療医会 要 伸也、尾田高志

一般の方での新規感染者が急増して、コロナ病床はひっ迫した状況となり、透析患者においても入院が非常に困難な状況となっています。東京都では、2021年8月12日から8月26日までの2週間で、51人と非常に多くの新規感染者が報告されています(1日に4-5人の新規感染)。この感染患者は2週間程度の入院加療を受けることから都内の病床はひっ迫しており、すでに一部の透析施設では保健所の送迎による通院透析を行っています。特に同じ透析施設から繰り返す感染事例が多く、地域医療をひっ迫させる原因となっています。このような施設においては、感染対策の見直しや強化、患者教育やスタッフ教育の徹底をお願いいたします。

行政と連携して病床の確保に努めておりますが、各透析医療施設におかれましては、このような現状を十分にご理解いただいて、透析患者における感染の急増を防止する観点から、以下について対応および徹底をお願いいたします。

- 透析患者および透析患者の家族を含むワクチン接種の推進

新型コロナウイルス感染対策合同委員会の集計によると、第5波における透析患者の感染経路は家庭内感染が増加しています。65歳未満の透析患者や透析患者の家族にも積極的なワクチン接種をお願いします。

- 感染疑い例への積極的なスクリーニング検査と隔離透析

第3波や第4波での透析施設のクラスター発生原因に、健康状態の把握の不備と考えられる事例がありました。送迎バスへの乗車や透析室への入室の前に必ず健康状態の把握を行ってください。発熱や咳など症状のある方には、事前に透析施設への連絡を行うように指導して、症状がある方には積極的なPCR検査や抗原検査によるスクリーニングと積極的な隔離透析を行うようにしてください。

- 自施設での隔離透析の準備

感染疑い患者や感染患者が発生した場合、自施設での透析予定日にも関わらず、透析を施行せずに入院調整を待つ、あるいは3日空きの透析を予定するなどの施設が未だに見受けられます。このような事例は、入院した際に溢水なのか肺炎なのかの判断がつき難くなり、入院透析施設での緊急透析や夜間透析などの負担をかけることとなります。透析患者は入院という原則が保てず、入院が決まるまでの間は、自施設での透析をお願いする症例が増加しています。自施設での個室隔離透析または空間的な隔離、時間的な隔離での透析が行える体制を速やかに構築してください。なお、時間的な隔離でしたら、平日夜間や日曜日といった、通常は透析を施行していない時間帯も含めて考慮ください。